

狛江市学習状況調査

- (1) 調査実施日 令和4年4月12日（火）
- (2) 調査の目的
 ◇ 生徒の学習状況を把握し、生徒の学力を把握、分析する。
 ◇ 分析結果を基に日々の授業改善を行い、生徒の学力向上に資する。
- (3) 調査対象、実施教科等

調査対象	実施教科	調査範囲	調査実施時間	受検者数
第1学年	国語、数学、英語	前学年までに履修した内容	45分間、配布と回収を含め1単位時間（50分）を充てる。	448人
第2学年	国語、数学、英語			439人
第3学年	国語、数学、英語			433人

「狛江市学習状況調査」第2学年の結果（大領域別集計）

第2学年

大領域別集計					
部	内容	正答率	全国正答率	全国比(全国=100)	全国正答率との比較
国語	1 話すこと・聞くこと	64.1	63.3	101	▲
	2 書くこと	62.6	62.6	100	＝
	3 読むこと	53.0	49.6	107	▲
数学	1 数と式	58.2	59.5	98	▲
	2 図形	58.5	52.0	113	▲
	3 関数	49.9	48.7	102	▲
	4 データの活用	61.0	55.4	110	▲

国語では、「読むこと」の領域では全国より7%上回った。特に「読むこと」の領域から出題された、「主題の傾向を読み取る」に関する問題が全国より大きく上回った。

数学では、「図形」の領域が全国より13%上回った。「図形」の領域から出題された、「平面図形」に関する問題が全国より大きく上回った。また、「データの活用」の領域も全国より10%上回った。「データの活用」の領域から出題された、「ヒストグラムと相対度数」が全国より大きく上回った。一方、「数と式」の領域は全国より下回った。特に「方程式」に関する問題が全国より下回った。

「狛江市学習状況調査」第3学年の結果（大領域別集計）

第3学年

大領域別集計					
部	内容	正答率	全国正答率	全国比(全国=100)	全国正答率との比較
国語	1 話すこと・聞くこと	66.5	64.7	103	▲
	2 書くこと	61.2	56.9	108	▲
	3 読むこと	56.3	52.9	106	▲
数学	1 数と式	72.7	67.6	108	▲
	2 図形	68.9	66.0	104	▲
	3 関数	52.8	47.3	112	▲
	4 データの活用	55.9	58.3	96	▲

国語では、全ての領域において正答率が全国より上回った。「書くこと」の領域では全国より8%上回った。「書くこと」の領域から出題された、「情報を選び構成を考えて書く」に関する問題が全国を大きく上回った。

数学では、「関数」の領域が全国より12%上回った。「関数」の領域から出題された、「1次関数」に関する問題が全国を大きく上回った。一方、「データの活用」の領域が全国より4%下回った。特に、「四分位範囲や箱ひげ図」に関する問題が全国を大きく下回った。

全国学力・学習状況調査

- (1) 調査実施日 令和4年4月19日（火）
- (2) 調査の目的
 ◇ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ◇ 取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ◇ 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 調査対象、実施教科等

調査対象	実施教科	調査範囲	調査実施時間	受検者数
中学校 第3学年	国語、数学、理科	調査する学年の前学年までに含まれる指導事項	45分間（準備・回収含まない）	423人

- (4) 調査の内容
 ◇ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 ◇ 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

第3学年

「全国学力・学習状況調査」第3学年の結果

国語	平均正答率			東京都比	全国比	
	狛江市	東京都(公立)	全国(公立)			
全体	59.7	60.1	59.4	-0.4	0.3	
領域	A 話すこと・聞くこと	66.1	65.7	63.9	0.4	2.2
	B 書くこと	40.0	43.8	46.5	-3.8	-6.5
	C 読むこと	73.1	70.8	67.9	2.3	5.2

全体の正答率としては、全国より0.3%上回ったが、東京都より0.4%下回った。

領域別では「読むこと」が5.2%、全国より上回った。一方、「書くこと」の領域が、全国より6.5%、東京都より3.8%下回った。

数学	平均正答率			東京都比	全国比	
	狛江市	東京都(公立)	全国(公立)			
全体	56.0	54.0	51.4	2.0	4.6	
領域	A 数と計算	62.8	59.5	57.4	3.3	5.4
	B 図形	49.0	47.6	43.6	1.4	5.4
	C 関数	51.8	47.1	43.6	4.7	8.2
	D データの活用	57.5	59.5	57.1	-2.0	0.4

全体の正答率としては、全国より4.6%、東京都より2.0%上回った。

領域別では「数と計算」が5.4%、「図形」が5.4%上回った。特に「関数」は大きく8.2%上回った。一方、「データの活用」の領域は、東京都より2.0%下回った。

狛江市学習状況調査と全国学力・学習状況調査（第3学年）の結果より

<国語> 「読むこと」の領域から出題された「主題や構成を読み取る」の問題では、NRTの選択問題では、全国が66.7%、狛江市が71.8%であり、記述式の全国学力調査では、全国が73.8%、狛江市が79.9%と高い正答率となり、題意を読み取ることができていた。一方、「書くこと」の領域から出題された「考えが分かるように工夫して書く」の問題において、NRTの選択問題では、全国が67.5%、狛江市が72.6%の正答率であったが、全国学力調査では、記述式のため全国が46.5%、狛江市が40.0%と低い正答率となった。記述式の正答率を高めるため、国語科を中心に「書くこと」の力を教科等横断的に育成していく必要がある。

<数学> 「図形」の領域から出題された「三角形の合同の証明」の問題では、NRTの選択問題では、全国が55.0%、狛江市が59.0%の正答率となった。全国学力調査では、記述式であったが穴埋めであったため、全国が73.2%、狛江市が80.9%の正答率であった。また、全国学力調査で記述式の問題として出題された「筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する」問題における正答率は、全国が12.5%、狛江市が17.0%と正答率が著しく低かった。国語と同様に自分の考えを表現するための「書くこと」の力を育成していく必要がある。